

004 TICA

なんらかの賞を獲った作品を中心に本を選んでいる友達のおかげで私も話題作が読めます。東野圭吾の殆どは健さんのおかげ。今回は幽霊会員のグリコに借りた本も 3 冊読みました。読んだ本が少ないから余計にどの本がグリコの本かわかるかもしれませんね。グリコってこういうのを読んでいるんだなあって思いながら読み進みました。借りた本を読むって、その人の何かがわかるってところあるような気がします。

題名	著者	あらすじ
つくも神貸します	畠中恵	【深川にある「出雲屋」は、お紅・清次の姉弟二人が切り盛りする損料屋兼古物屋。布団や鍋、置物の類まであらゆるものを貸し出すのが商売だ。なかには日用品だけでなくよい骨董の品々も並んでいるが、実はそれらは、作られてから 100 年以上がたったことで付喪神と呼ばれる妖になってしまったものばかりだった】しゃばけシリーズより面白かった。
赤い指	東野 圭吾	【直木賞受賞後第一作。身内の起こした殺人事件に直面した家族の、醜く、愚かな嘘に練馬署の加賀恭一郎が立ち向かう。ひとつの事件を中心に描き出されるさまざまな親子像。東野圭吾にしか書き得ない「家族」の物語。『放課後』でのデビューから数えてちょうど 60 冊目にあたる記念碑的作品】健さんに借りるときにこれは TICA ちゃん読んでもよといわれたにも関わらず、読んでないと言い切った。1 ページ目を読んだとたん記憶がふつふつと蘇った。読んでも…しかもつまらなかった記憶が…。でも今回二度目に読んだほうが「家族」の書き込みが面白く感じた。
マジックミラー	有栖川有栖	【双子の兄弟が殺人犯？しかし兄の妻が余呉湖畔で殺されたとき、兄は博多、弟は酒田にいてアリバイは完璧だった。やがて第 2 の殺人。兄弟のどちらかが被害者らしいが、死体からは頭と手首が失われていた。犯人の狙いはどこに？犯人の大トリック、多彩な伏線が、結末で読者を仰天させる、大型新鋭の傑作】これは大昔に読んだのを知っているながら懐かしくて買った。主人公が高校生じゃないのにびっくり。同時期に読んだ東野圭吾の『放課後』と混同していたみたい。
三年身籠る	唯野未歩子	【冬子の身籠った赤ん坊は、十月十日を過ぎてても生まれてこない。浮気ばかりしていた夫の徹は、子供の父親を疑い、奔放な妹の緑子と、その恋人で医者のお卵である海くんは、協力という名の騒動を巻き起こす…。女優であり、本作の映画化で監督デビューも果たした著者の、静けさと笑いに満ちた処女小説】

<p>八月の路上に 捨てる</p>	<p>伊藤たかみ</p>	<p>【暑い夏の日。僕は30歳の誕生日を目前に離婚しようとしていた。愛していながらなぜずれてしまったのか。現代の若者の生活を覆う社会のひずみに目を向けながら、その生態を明るく軽やかに描く芥川賞受賞作！他一篇収録】</p>
<p>ゆれる</p>	<p>西川美和</p>	<p>【故郷を離れ、東京で写真家として活躍する弟・猛。母親の法事で徐々に帰省し、兄・稔が切り盛りする実家のガソリンスタンドで働く昔の恋人・智恵子と再会する。猛と智恵子とは一夜を過ごし、翌日、兄弟と彼女の3人で渓谷へ遊びに行く。猛が智恵子を避けるように写真を撮っているとき、智恵子が溪流にかかる吊り橋から落下する。その時、近くにいたのは稔だけだった。事故だったのか、事件なのか？ 裁判が進むにつれ兄をかばう猛の心はゆれ、そして証言台に立ち最後に選択した行為とは…】</p> <p>揺れる吊り橋で起こった事件と、読み手に委ねられた結末に読者は揺れる。3行の文章中に「今」を3回も使ったり、例の「犯罪を犯す」を10回以上使っていたり、もしかしてあまり文章はうまい人じゃない？</p>
<p>深層</p>	<p>朔 立木</p>	<p>【大学病院の医師・相川は、激務の疲れから、薬剤の投与量の計算を間違えてしまう。患者である少女は片手を失い…。医療過誤の現場をリアルに描く「針」。援助交際をしていた少女が、手錠をかけられた状態で高速道路で轢死した。少女が抱えた哀しい内面に迫る「鏡」など、実際の事件に材を取った四編。現役の法律家が、事件の背後に隠された人間性の真実に光を当てる】</p>

